

1年4組 音楽科学習指導案

平成21年12月1日(火) 第4限
場 所：音楽室

1. 題材 アルトリコーダーにチャレンジ①

教材：「喜びの歌」、「かっこう」、「聖者の行進」

2. 目標

① 【音楽への関心・意欲・態度】

アルトリコーダーの音色や響きの美しさを感じ取りながら、関心を持ち、意欲的に練習することができる

② 【音楽的な感受や表現の工夫】

アルトリコーダーの音色や響きの美しさを感じ取りながら、曲想に応じた表現の工夫ができる

③ 【表現の技能】

アルトリコーダーの音色や響きの美しさを感じ取りながら、基礎的な奏法を身に付けることができる

④ 【鑑賞の能力】

アルトリコーダーの音色や響きの美しさを感じ取りながら、表現の工夫を聴き取ることができる

3. 指導にあたって

(1) 教材観

器楽の中でもリコーダーは小学校から取り組んでいて、ジャーマン式のソプラノリコーダーは運指が簡単で取り組みやすい楽器である。中学校では深い音色のパロック式のアルトリコーダーを使用し、音色や響きの美しさを感じ取らせたい。またアルトリコーダーの持つその素朴で柔らかな音色は、主旋律を演奏するのはもちろん、オブリガートやグループで演奏すれば、ハーモニー感を養うのにも適しており、今後の多様な音楽活動の展開に役立つ楽器の一つになると考えられる。中学生になって最初に取り組む器楽の教材に、このアルトリコーダーの柔らかな音色に親しませ、アンサンブル活動の楽しさに触れさせることにより、今後の音楽活動に更に意欲的に取り組むのではないかと考え、この題材を設定した。

「喜びの歌」はC～Gの音のみで演奏できる易しい曲で、この曲は誰もが耳にしたことのある旋律なので、抵抗なく練習できる曲であると思われる。また、音のつながりが音階のように構成されており、C～Gの運指が無理なく定着する曲であると思われる。また、ポルタート奏法とノンレガート奏法の2種類のタンギングの奏法を学習することで、リズムカルな歯切れの良い旋律や滑らかな旋律を豊かに表現するための手だてとしたい。

「かっこう」はアルトリコーダーによる初めてのアンサンブル曲となるが、生徒にとっては既習の曲だと思われるので、無理なく導入できると思われる。出だし2小節のタンギングに気を配り演奏することで、曲に合ったタンギングと息づかいの工夫ができ、後半は主旋律と副旋律を三度に重ねて演奏することで、リコーダーの柔らかなハーモニーを感じ取らせることができると思われる。

「聖者の行進」はC～Gの5音だけで演奏できるように編曲されており、前の2曲に比べて一段と表情豊かな曲である。リズムカルで歯切れもよく、豊かなリコーダーの響きを感じながら練習ができると思われる。最初の部分は二部の掛け合いで楽しく、後半の部分は斉奏と三度のハーモニーを感じながら演奏でき、自然とアルトリコーダーに親しむことができると思われる。

上記の3曲はいずれもC～Gの音だけで演奏できる曲であり、左手のみで演奏できる曲である。楽器が大きいために右手も使用する曲目については「アルトリコーダーにチャレンジ②」として2年時に取り組む予定である。

(2) 生徒観

リコーダーの授業に入る前に1年生全員に「リコーダーについてどうでしたか？」というアンケートを実施したところ、「楽しかった・やや楽しかった」とリコーダーの授業に肯定的な生徒が3分の2に対して、「あまり楽しくなかった・全く楽しくなかった」と否定的な生徒が3分の1という結果であった。否定的な生徒の理由としては、殆どの生徒が「運指が難しかった」と答えているが、肯定的な生徒についても「指づかいが難しかった」という意見が多かった。また肯定的な生徒の理由としては、「いろいろな曲が演奏できたから」という意見が多い結果であった。

そこでアルトリコーダーの導入に際して、平易な運指で多くの曲を演奏する機会を持つことにした。具体的には1年生の導入時に、左手の運指のみで演奏することで、楽しさを前面に出しながら、リコーダーに対する楽しさを感じさせていきたい。また中学校では器楽の授業は初めてなので、丁寧な導入に心掛けることにより、器楽の楽しさを味わわせたい。また1年時では基本練習を行う機会を多く取りながら、運指に躓く生徒を少なくして、苦手意識を克服させたい。そして来年度以降にはアンサンブル活動の楽しさを感じ取れるよう、初歩的な演奏技能をしっかりと身につけさせたい。

(3) 指導観

中学校に入って初めての器楽の授業であるので、まず楽器を演奏して楽しむ気持ちを育てることを第一に指導していきたい。そこで様々な曲を演奏していくうちに技能が向上していったという授業を目指すために、予想される生徒の躓きについての的確に捉え、具体的な方策を準備する必要があると思われる。

まず最初に生徒たちは、小学校まで使っていたソプラノリコーダーとの、大きさの違いに戸惑うと思われる。アルトリコーダーはソプラノリコーダーと比較して楽器が大きく、全部のホールを塞ぐには指の間隔が狭い1年生にとって難しいので、1年時には左手のみの学習を、2年時になってから右手を伴った学習を行うことで、大きさに関わる問題を導入時に解決したい。もう1つは「ド」の運指がソプラノリコーダーの「ソ」の運指となることで混乱すると思われる。その混乱を防ぐために拡大した運指表を提示し、楽譜からではなく運指表の指示通りに吹くことで曲を完成していきながら、いろいろな曲を演奏できるようにしていきたい。

また技術的な躓きをなくすためにも、基本練習を反復することが大切だが、単なる音階練習だけではリコーダー嫌いの原因になると思われるので、指導を工夫しながら運指の定着を図っていきたい。具体的には2小節程度の教師の範奏を、生徒がすぐに繰り返して演奏するといった練習方法で、教師の範奏に集中させて聴く取組を行いたい。またパターンを変化させながら2度、3度と音域を広げて難易度を上げたり、わざと後ろを向いて演奏することで、生徒の集中力を更に向上させた授業を目指したい。

一方教材としては、「喜びの歌」、「かっこう」、「聖者の行進」といった小学校の既習曲を選ぶことにより、生徒の躓きを少なくしたい。この3曲は生徒にもよく知られていることで、練習を行っていく上でリズムやメロディーの理解に時間がかからず、生徒は運指やタンギング、音色やハーモニーに対して注意深く耳を傾けることができると思われる。また後半はペア活動で互いに協力し合いながら、音楽を作りあげる楽しさにも触れさせ、互いのグループの演奏も聴き合うことで、より良い演奏を感じ取り、自らの今後の演奏の向上に繋げるように指導していきたい。

(4) 校内研究との関わり

美しい音色を出すために自らの音を聴きながら、工夫して演奏している (思考力)
奏法を変化させ、きれいな音色で演奏できるように工夫している (判断力)
相手の演奏を聴いて、音の長さやハーモニーを意識しながら、自分の演奏をしている (表現力)

4. 本時の学習（第二次第1時）

- (1) 主題（教材） 「喜びの歌」（作曲者：L. v. ベートーヴェン）
- (2) 本時のねらい 音符の長さを変えて曲の雰囲気を変化させよう
- (3) 学習過程

時	学習活動(○)と 予想される生徒の反応(・)	指導と評価方法 (※Cの生徒への手だて、☆活用力)
5	○前時の復習（p9～p10）に取り組もう ・「タンギングに合わせて指を素早く動かすのだったな」	・2小節程度の基礎練習のパターンを範奏し、運指に着目させる
5	○美しい音色で、先生の範奏に合わせて演奏しよう ・「タンギングと息づかいに気をつけて演奏するのだったな」	・拡大された運指表を提示する ・美しい例とそうでない例をデフォルメして、美しい音色を確認させる
5	○運指表を示した順番に音を出そう ・「この曲は『喜びの歌』だ」	・拡大された運指の図を提示する ・運指表の音を『喜びの歌』の順に指示する
課題 音の長さを変えると、どんな効果があるのだろうか		
5	○『喜びの歌』を演奏しよう ・「意外と簡単な曲だった」	・『喜びの歌』の順に運指表を提示する ・隣同士の高さの音が連続している曲なので、階名がわからなくても書かずに練習をさせる
5	○2種類の『喜びの歌』を聴いてみよう ・「最初の方は滑らかな感じがした」 ・「二番目は音の長さが短かった」	・ポルタート奏法とノンレガート奏法の違いに着目させる
5	○2種類の奏法で『喜びの歌』を練習してみよう ・「長い音で演奏すると曲の雰囲気が柔らかく感じる」 ・「短い音で演奏すると曲の雰囲気が生き生きした感じに変わる」 ・「短い音は乱暴になりやすい」	・デフォルメして2つの違いがわかりやすいようにする ・運指が不安な生徒のために、前に立って範奏の運指を見せる <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ☆奏法を変化させ、きれいな音色で演奏できるように工夫している（判断力） </div>
5	○『かっこう』のA1のパートの練習をしよう ・「階名がわからない」	・階名を書いた拡大譜を提示する ・運指は左手だけで、既習のド～ソだけで練習できることを知らせる
10	○音の長さを変化させて『かっこう』を演奏してみよう ・「最初の部分は短い音の方が雰囲気にあっている」 ・「最後の部分は長い音で吹いた方が良いのかな」	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 評価規準 ・音の長さを変化させて、曲想を工夫している <評価方法> 観察・ワークシート </div> ※デフォルメした範奏を行い、どの部分で変化させると良いか考えさせる
まとめ 音の長さを変えると、滑らかになったり生き生きしたり曲の雰囲気が変化した		
5	○ワークシートを記入する ・「音の長さを工夫して演奏できた」	・次時は『かっこう』でアンサンブル活動を行うことを連絡する